

10月から図書館がもっと便利に！

10月1日から市内5つの図書館（三角・不知火・松橋・小川・豊野）で、図書館ネットワークシステムが稼働します。これにより、どの図書館の読みたい本も、最寄りの図書館で検索し、予約し、借り、返却することができます。また遠く離れた図書館で借りた本も、最寄りの図書館で返却することができます。読みたい本があったら近くの図書館においでください。図書館を利用して、これまで以上に読書を楽しみましょう。

まずはカードを手に入れよう

図書館を利用するには、「図書館利用証」（通称「図書館利用者カード」）が必要です。図書館窓口で申請してください。カードは市内在住の人または市内に通勤・通学している人のみ発行され、有効期限は3年で、更新が必要です。



「図書館利用証」
（通称「図書館利用者カード」）

カードを作る時

市内在住の人は住所の確認できる物を、市内に通勤・通学の人是在職・在学を確認できる物をご持参ください。ただし小学2年生以下の場合は、保護者の同意が必要となります。
※住所や氏名が変わった時は、変更が確認できる物をご持参の上、変更届を出してください。

カードの申請書を提出している皆さんへ

10月1日以降に最寄りの図書館で新カードを発行します。

不知火図書館または小川図書館の旧カードをお持ちの皆さんへ

新カードに切り替えます。最寄りの図書館に旧カードと住所

の確認できるものをご持参ください。

カードをなくした時

市内居住者は住所の確認できる物を、市内に通勤・通学している人は在職・在学を確認できる物をご持参の上、紛失届を出してください。

カードを返す時

市外への転出、死亡または市内へ通勤・通学をすることがなくなった時は、図書館にカードをお返しください。

お願い

カード発行・切り替えには時間を要する場合があります。ご理解とご協力をお願いします。

さあ！ 本を借りよう 不安や疑問もこれで解決 図書館利用方法Q&A

「図書館を利用したいけど利用方法が分からない」「こんな時はどうすればいいの？」
といった皆さんの不安や疑問を解消するべく、図書館の利用方法を一挙にご紹介します。

Q.1 本を借りる時は？

A. 借りたい本と図書館利用者カード（本人のみ有効）をカウンターに出してください。

○図書・雑誌・紙芝居…5館で10冊まで。返却は2週間以内

○視聴覚資料（CD・ビデオ・DVDなど）…5館で2点まで。返却は1週間以内

（注）※郷土資料、辞典・辞書などの参考資料は貸し出しできません。館内でご利用ください。

※小学3年生以下のお子さんが視聴覚資料を借りる時は保護者同伴をお願いします。



Q.2 本を返す時は？

A. 返す本をカウンターへお出しください。図書館利用者カードは必要ありません。5つの図書館どこにでも返すことができます。ただしCD・ビデオ・DVDなどは借りた館にお返しください。次の利用者が待っています。返却日を守りましょう。

（注）図書館が閉まっている時は「返却ポスト」に本を入れてください（ただし豊野図書館については、図書館が開いているときにカウンターに返却してください）。

CD・ビデオ・DVDは破損の原因になるので、ポストには入れないでください。



Q.3 本を探す時は？

A. 画面に触れるだけで読みたい本を探すことができる、タッチ式の利用者開放端末（OPAC）をご利用ください。操作はお気軽に職員にお尋ねください。閉架書庫（※）やほかの館に所蔵の本については、カウンターの職員にお尋ねください。

※閉架書庫とは、利用者が直接入ることのできない書庫のことです。



Q.4 本を予約（リクエスト）する時は？

A. 読みたい本が貸し出し中の時、ほかの図書館に所蔵してある時、市立図書館に所蔵していない時は、予約（リクエスト）することができます。リクエスト・予約申込書に必要事項を記入してカウンターの職員にお渡しください（市立図書館に所蔵していない本については、すべて用意できるとは限りませんのでご了承ください）。本の用意ができたなら電話連絡します。

※広報うき9月1日号「図書館のまど」で、利用者開放端末（OPAC）で蔵書の予約ができていましたが、OPACで予約はできませんのでご了承ください。

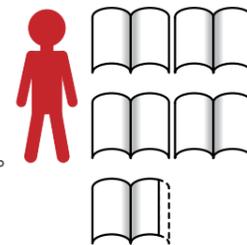


Q.5 本や雑誌をコピーしたい時は？

A. 著作権の範囲内でコピー（白黒1枚10円）することができます。コピー機をご利用の場合は、「複写申込書」に記入の上、カウンターにお出しください。



年間の貸し出し冊数は319,509冊。1人当たり4.97冊借りていることになりました。
（平成18年3月31日現在）



市内の図書館利用者カード登録者数は23,356人。約2.5人に1人が登録していることになりました。
（平成18年3月31日現在）



ちょっと一息 ～読書ノススメ～

そっと立ち止まって、心を澄ましてみませんか。聞こえますか。秋の気配。黄金色に輝く稲穂。真っ赤な夕日。私たちの心の中は優しさに満ちあふれることでしょうか。

読書は心の中に「ふしぎ」の空間を作り出します。そして知らない世界へ誘い、目には見えないものを信じる心を育て、豊かな自然や生きる喜びや悲しみなど、いろいろな感情や感覚を感じ取る力を与えてくれます。昔話に聞き入る子どもたちの真剣な顔を見てると、子どもは本来ふしぎを信じたがっているのだとわかります。心の中のこの空間、つまり目に見えないものを信じる心の働きが、一人の人間としての精神の豊かさを育てるために大切なのだと感じられます。

読書は魂の糧。秋の日の一日をゆったりとした気持ちで本をひもといてみませんか。